

# シオンの子

第 30 号

2013. 5. 5



第32回児童文化奨励絵画展

銀賞受賞 「パンの舟」

小学2年 男児

ありがとうランドセル

私は、すこく感謝している物があります。それは、ランドセルです。

楽しみで、ワクワクがとまらない小学校生活が、はじまりました。ピカピカでとても大きな、ランドセルをせおつて、重い教科書を入れて、毎日毎日いっしょうけんめい登校しました。もちろん行きたくない日もいっぱいあったと思います。けれど気付いたら、ランドセルが背中にありました。もう学校にもちよつとなれてきた、二年生、下級生が出来て、おねえさん気分だったと思います。三年生、勉強の科目も増え、六時間になりとてもねむくなることもありました。だんだんと人間関係がわかって来ているようになって、ランドセルをけつたり投げたりしたこともありました。ランドセルさんごめんなさい。四年生、ますます学校がいやになって、ふんだり、ランドセルに乱暴ばかりしていました。五年生、勉強がとっても難しくなつて、先生が男の先生になつて毎日が緊張して、学校に行きたくなくてもこわかつたから毎日ちゃんと行きました。ランドセルがポロポロになつて来ました。それは、三、四年でけつたりしたから疲れたんだと思います。最上級生になつてみんなの見本にならなくてはいけなくもつても大変です。ランドセルは、皮もむけピカピカの赤いランドセルだったのにピンクになつてしまいました。

ちよつとふんだりのせいもあると思いますが、ポロポロになつたのは、いっしょうけんめい学校に行つたからだと思います。後ちよつとの小学校生活よろしくおねがひします、ランドセルさん。

(小学六年女子)

編集  
発行 印刷  
ホームページ

社会福祉法人子持山福祉会  
児童養護施設 子持山学園  
<http://www.komochiyama1952.com/>

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1  
TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153  
Mail [komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp](mailto:komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp)

**「子持山学園」  
創立前余話**

社会福祉法人子持山福祉会  
評議員 高橋 潔

「子持山学園歌」の一節に「いのりのこえは つちにみつ」とあるように、創立者中沢英三氏がキリスト教精神に基づき、私財を投じ施設を建設、県の認可を得て、本園を創立されたのは、今を去る六十一年前の昭和二十七年（一九五二年）八月十八日である。

当時、地域にあつては「施設」と言うことばにも慣れず好奇な期待を寄せていた。特に場所が現在と同様通学路沿いであつただけに白井・吹屋の子ども達は、建物の取り壊しから、整地、資材の運搬と日々変容する姿に特別な関心を寄せてい

た。

当時の建造物、敷地ともその前身は、生糸工場で、明治三十三年（一九〇〇年）信用販売組合碓氷社長尾組として設立され、組合員に製糸業に必要な資金の貸付、貯金の便宜、生産した生糸の販売を目的とし、区域は現子持地区（長尾村・白郷井村）とした。

昭和十六年（一九四一年）太平洋戦争が勃発し、やがて戦況が悪化し軍需最優先化する中、横浜の日本精密（軍用メーター製作）が移転して来て操業を開始した。本格的工場建設に伴い周辺の用地を買収する計画が出され、「お国のためなら」の一語で皆応じた。わが家も慣れ親しんできた畑の大半を提供したが、間もなく終戦となり、計画倒れに終わり、その後、社員の野球練習に使用された。

残念な反面、地域に思わぬ活性化ももたらし、全転勤家族による人口増、都会的生活風習など子どもの世界も一部様変わりし影響力が見られた。

昭和二十五年（一九五〇年）会社も閉ざされ、大方は都会に戻り後に残った人達による精密測器が渋川工業高校南東寄りに新会社を設立、その後、子持に現在操業を続けている。

思えば、学園の土地は時代の要請に全て応えてきた好条件の場なのだ。

**巣立ちの時**

児童養護施設子持山学園  
施設長 豊田 誠

三月二十八日。学園を巣立つ子どもたち六人の壮行会を行った。学園での生活が長い子が多く、思い出も山ほどあり、分かれがたい壮行会となった。一人一人

の成長の歴史を行事と共にスライドで映した。「かわいかったんだねえ」「〇〇先生の後をいつもくつついていたんだよ」「夏のホーム旅行では海に行つた」「運動会、かっこよかった」「年中、怪我をして心配かけたね」いろいろな感想が聞こえてくる。先生方からは「社会に出れば大変な事が沢山あると思う。失敗も勉強だと思つて、くじけずに頑張つてほしい。何かあつたらいつでも相談していいんだよ。これからもずっと応援しているよ。たまには遊びに来るんだよ」と、愛情あふれる言葉が贈られた。先生の目には涙があふれていた。最後に、卒園する子どもたちからみんなへ一言。

「いろいろな事があつたけど、悔しいことや腹の立つこともたくさんあつたけど、みなさんのお陰でここまで成長できました。今思い返せば一つ一つが自分のためになつていたとわかります。熱が出たときずっと看病し

てくれた。本気で心配し怒つてくれた。みんながいてくれたから頑張つてこれた。みんなのことや学園での生活は忘れません。最後に、多くの人々にお世話になりました。これからは社会に恩返しできる人になりたいです。」

児童養護施設出身のメンバーのいるコーラスグループボクスレイが、学園のためにコンサートを開いてくれた。本物の生歌。息遣いが聞こえる。すごい迫力。感動の連続。「あきらめないで、希望に向かつて一歩を踏み出せば、願いは必ず叶う」メッセージからは、勇気を持つて行動を起こすことの大切さが伝わってきた。昨年度は、学園創立六十周年ということで、改めて多くの方々に支えられて今日があることを感じるこ

とができ感謝の気持ちで一杯です。これからも一つ一つ課題を克服し、よりよい学園を目指して、進んでいきたい。





**子どもの養育を考える**  
第11回 **児童指導員 安井 剛**

初心にかえって

私は、年明け早々に研修に参加し、『社会的養護』について振り返る機会をいただきました。児童養護施設が担う社会的役割はとて大きく、私たち施設職員もその役割の一端を担っていますが、職員による養育だけで完結できるものではないことも改めて認識する機会となりました。

子どもたちのご家族や、幼小中高、自治会子ども会、関係機関等あらゆる方々の関わりの中で育てて頂いていること、協力があって、私たちの役目を果たすことが出来るのだと改めて考えさせられます。

私たちは、子どもたちの日常生活の支援内容を、チームでどのように向上させていくのか、話し合いはもちろん見立てや技術や技法といった専門的スキルの習得に努めています。また、お互いの価値観の相違を認め合いながら、子どもたちが安心して生活して行くためには何が必要なのか、職員一人一人が考え続けます。

施設生活の日

常と、将来家庭や社会での生活がつながり、あたりまえの生活になるように。

「暮らす」・「暮らし」の視点を大切にし、その営みを通して、子どもたちの社会的自立と精神的自立を目指さなければならぬ責任が私たちにあります。

私が子どもたちに、いつも伝えている言葉があります。「一人じゃない」ということ。

私たち自身も誰かに支えてもらい、誰かを支えています。支えあい、助け合い、認め合い、ゆずりあい、たくさん愛に守られていることを伝えるために、努力を続けていきます。

これからも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



平成二十四年度  
退職職員より

子持山学園での日々

この春、十二年間勤めた子持山学園を退職しました。私は子どもたちに教え、伝える立場でしたが逆に子どもたちから教えられ、与えられることの方が多かったと、退職した今改めて感じています。子どもたちの成長を見守りながら、私も成長させてもらっていました。

私は十二年間の感謝の気持ちを、これから子どもたちへ返していきたいと思っています。これからも子どもたちを見守り、愛し続けていこうと思います。

子どもたちは四月から学年がひとつ上がりました。新しい友だちはできたかな、勉強は難しくなったかな、新しい生活には慣れたかなと思いを馳せる今日この頃です。今度会う時にまた成長している姿が見られることを楽しみにしつつ、私も負けないよう成長していこうと思います。

十二年間、本当にありがとうございました。皆さんの大切な出会いを思ってください。心から感謝致します。

児童指導員 矢内 千絵

冬の寒さも和らいで春を感じる今日この頃。大好きな子どもたちは、頼もしく元気に成長し新しい学年を迎えようとしています。今年度、私は退職することになり、子どもたちと同じように新しいスタートを迎えます。大切な子どもたちと職員、お世話になった全ての皆様のおかげで子持山学園の保育士としてのお仕事が出来ました。心より感謝申し上げます。私自身、児童養護施設の保育士を目指したのが中学生の頃で、それから十三年。沢山の苦労や挫折もありましたが、可愛い子どもたちと多くの人との出会いに恵まれ、支えられて今日まで頑張ることが出来ました。

大好きな子どもたちはいつもマイペース、おつちよこちゃんの私の側で一生懸命、日々を生きて可愛い笑顔と成長をみせてくれました。それがいつも私の支えでした。別れと出会いを経験し、またたくましく成長した姿を楽しみに、心から子どもたちの幸せを祈っています。ありがとうございました。

保育士 大澤 好美

(四ページへ続く)



昨年十一月よりお世話になっていきます。この学園に来て五カ月たちました。めぐみホームで過ごした五カ月はあつという間に過ぎて行ったように感じられませぬ。

めぐみホームには、小学校一年生から高校三年生までの七人の男の子が生活しています。小学校一年生のY君は、食欲旺盛で元気いっぱいです。少しおこりんぼうな所がありますが、私が寝ていると布団をかけてくれる、とても優しい男の子です。中学校一年生のT君はとても明るく、料理に興味があるようで、時折料理を手伝ってくれます。中学校二年生のR君は、部活にも、勉強にも一生懸命取り

組み、頑張っています。高校一年生のY君は、クールな一面もありますが、弟思いで、とても優しいです。

高校二年生のN君は、色々なことに気付き、よく手伝いをしてくれます。高校三年生のT君は、いつも冗談ばかり言っています。朝早く起きて学校に登校したり、土日はアルバイトをして一生懸命頑張っています。もう一人の高校三年生のE君は、自分のことよりも周りの人のことを思いやれる優しい心の持ち主です。みんなと過ごした五カ月はとても充実した毎日でした。高校三年生の二人には、最後の大切な時期と一緒に過ごさせてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。子どもと共に私自身成長し、子どもたちが安心して、やすらげる場を作っていくよう努め、支援していきたいと思えます。

めぐみホーム  
保育士 高橋 里江

外の花粉が  
厳しい新年度  
の始まりです。



そんな事を気にもしない子どもたちは外で元気に遊び花粉を付けて帰ってきました。花粉症の子どもも職員も厳しい季節です。四月から小学一年生になる子どもは自分のランドセルを前に学校を楽しみにしている様子です。しかし学校に通う事は楽しいことばかりではありません。通学、自分の足で往復約四キロ歩かなければなりません。勉強、言葉に数字、覚える事は山のようにあります。新しい環境、年上のお兄さんやお姉さん、入学することにより身の丈以上の事を求められ、それにより学び成長することになると思えます。浅田ホームには三年、四年になる子どももいるので職員は勿論ですが三、四年になる年上のお兄さんたちにも年下の面倒や今よりも勉強、運動と頑張ってもらいます。

(三ページの続き)

草木も芽生えて春風の心地よい季節となりました。持山学園にお世話になって十二年が経ち、私自身その間には結婚、出産、家の建築と大きな変化がありました。毎日家事、育児、仕事と時間に追われながら過ごしてみると、十二年という月日はあつという間に過ぎていったように感じます。

入職当時、三歳だった子は高校生になり、他の子どもたちも皆それぞれ社会へ巣立って行き、同じ時間を一緒に過ごせた事をとても嬉しく思います。卒園した子が、成人式にスーツ姿や振り袖を着て顔を見せに来てくれたり、仕事が休みで顔を見せに来てくれたりと、昔話を話している姿を見ると、職員がいつも側にいて関係作りをしてくれたからこそ、戻ってこられる居場所なのだと思えます。持山学園では、沢山の事を教えて頂き、色々な経験をさせて頂きました。これからの皆様の御活躍をお祈り申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

調理員 松田 千穂

私は一年間という短い間で、最初は、覚える事も沢山あり、出来ない事も沢山ありました。しかし、一番戸惑った事は、子どもたちとの関わりでした。

今までは、幼稚園児と保育園児との関わりしかありませんでした。小学生以上との関わりに加えて、今までは母親に頼りっぱなしだった家事。毎日毎日、目の前の事だけをこなして、目まぐるしい一日一日でした。でも、子どもたちと学校での事を話したり、他愛もない事で笑ったりする事で、少し気持ちの余裕が出てきました。

沢山の思い出と経験を経て、社会人としての自覚や厳しさなどを改めて知り得る事が出来ました。一年間の中で、沢山の事を学ぶ機会となりました。退職という形になりましたが、社会人一年目が持山学園で良かったです。そして、ひかりホームの担当で良かったと心から思っています。お世話になりました。そして、ありがとうございました。

保育士 黒澤 夏美



浅田ホーム  
保育士 森田 大介

今年度から中学二年生と高校二年生になる二人は初めてのクラス替えです。一年間で馴染んだクラスとはお別れです。新学期当日、入学式を終えた一年生はまだまだ元気です。幼稚園でも一緒だった子、近所で遊んでいる子とクラスが同じだったためか気持ちの面で少し余裕ができたのかもしれない。入学式からの帰りは私と二人で歩いて帰ってきました。帰り道を覚えていた事に驚いた反面成長している事を強く感じました。中、高生帰宅後クラス替えの事を聞くと「なりたかった友達となれた」と喜んでいました。子どもたちが良いスタートをきれた事が何よりも嬉しく思います。

暖かい南風が吹き始め、何となく心弾む今日この頃です。小学生は今、スキル勉強会に取り組んでいます。「あいさつをする」「ありがとうを言う」はとても良く出来ていて、毎日子どもたちの元気なあいさつからパワーをもらっています。今まで意見を伝える事が出来ず、納得がいかないと感じるをむき出しにしたり、思いがあっても我慢してしまったりも就寝前の予防的教育の繰り返しで徐々に相手に意見を伝える事が出来るようになっていきます。T君K君H君は些細な事でよく喧嘩をします。スキル勉強会当初は先生と三人での話し合いで解決していましたが、最近では「あやまる」「意見を伝える」のスキルを使って三人で解決法を見出せるようになって来ています。中高生も時々参加しみんなで確認し合い効果的に進められています。



私は四月より他ホームに配属が決まりました。三月末頃よく泣いていた私を見てM君が「いつだって会えるし、いつだって俺達一緒にだよ」と声掛けしてくれました。中二から過ごしたM君の成長に感動し笑顔で新しいスタートを切る事が出来ました。

わかばの子どもたちへ  
誰かが辛い時こそみんなで支え合ってほしい、感謝の気持ちを忘れずたくましく育ってほしい、みんなの成長は私の誇りで宝物だよ。ありがとう!!

わかばホーム  
保育士 萩原 佐輝乃



旅立つ子どもたちへ  
今年の春は、六人の子どもたちが持山学園を巣立っていきました。どの子も幼いころから成長を見守っていったせいか、その日が近づくにつれ何とも言いようのない思いが込みあがり気持ち沈む日もありました。そんな私の思いと裏腹に子どもたちは、次々と「自動車の運転免許取れたよ」と真新しい免許証を見せに来てくれ「教習所に通うのをあんなに嫌がっていたのによく頑張りました」と頭を撫でてあげたいほどでした。私は、免許証を片手に喜ぶ子ども姿を見ながら何故か、教習所通いと施設の生活(関わり)が重なってしまいました。嫌がりながらも短期間で結果が得られる教習所と反抗的な態度の子どもに何時か解ってくれると思いつながらの気の遠くなる日々の関わりを続けている職員。比べようがないけれど子どもが口にした「嫌」が共通だったので重

なってしまったのかもしれない。施設で結果(?)はすぐには出ませんが、何時か社会に出て、一つでも施設での生活が役に立ったと思える事があつたら、迷った時に思い出した先生からの一言があつたら、それが持山学園で育った証です。どうぞ運転免許証のように更新日は有りませんが大切に心に保管しておいて下さい。  
最後に一人暮らしは自分との戦いです。「自分を大事に思うこと、自分を大切にすることの第一歩は、まず自分の健康(からだ)を守ることです。」健康の源は「食事」、食の大切さをしっかりと伝えていきたいと思えます。

管理栄養士 飯塚 由美



# 活動報告

平成24年11月～平成25年4月

- ・群馬県ALT（外国人教師）来園交流
- ・詩・作文コンクール
- ・七五三児童祝福式
- ・おもちゃ王国様より無料招待
- ・J.R東芳組様文化祭
- ・ザスパ草津観戦招待
- ・渋川チャイルドゆめフェスティバル（観劇）

- ・渋川教会クリスマスマスゴスペルコンサート
- ・高崎和田ライオンズクラブ様七五三撮影
- ・善行会北毛支部様お餅つきご奉仕
- ・プロバスケット観戦招待
- ・子どもの教会クリスマス慰問
- ・学園、地域、教会クリスマス会
- ・年末年始の帰省
- ・地区上毛かるた大会
- ・全日本プロレス様観戦招待
- ・学園スキー・スノーボ教室、そり遊び
- ・節分
- ・VOXRAYコンサート

- ・渋川市少年なわとび大会
- ・社会への巣立ちフェスティバル（高校生対象、資生堂主催）
- ・幼稚園、各校卒業式
- ・卒業祝い（幼・小・中・高）
- ・卒園児童 壮行会（六名卒園）
- ・渋川中央ライオンズクラブ様バーベキューのご奉仕
- ・シアターMIX&DIN読み聞かせ会
- ・イースター早天礼拝
- ・園内保育お別れ遠足（桐生ヶ岡公園）
- ・幼稚園・各校入学式
- ・入学祝い（幼・小・中・高）

※その他、多数の招待、寄贈等に感謝。

平成二十五年四月入所児童状況

- ・ 幼児 四名 ・ 小学生十九名
  - ・ 中学生十七名 ・ 高校生 八名
  - ・ 社会人 一名（措置延長中）
- 計四十九名



ALT交流会



バーベキュー  
（渋川中央ライオンズクラブ）



クリスマス会



おもちゃ王国招待



スキー教室



全日本プロレス!!



餅つき（善行会）



群馬県インカゲーズ戦へ



## 学園を支えてくれる「かみ」

ボランティアを始めて四年目になります。私は子供の頃、保母になりたいという夢がありました。末の娘が中学生になりホッと息をついた頃、そんな昔の夢を思い出したので。子供に関わりたいたいという気持ちですが、フツフツと湧きおこりました。

それから子持山学園で、月一から二回程度子供達との交流を持たせて頂いています。子供達は元気で、とても可愛いですが、時には対応を考えさせられることもあります。そんな時、常に子供達に対応して家族のかわりをされている若い職員の方々には、頭が下がる思いです。

これからも微力ながら、子供達の成長を見守り、手伝えることができたなら幸せに思います。

子ども交流ボランティア

杉本 日和



ある日曜日の日中、公園で遊び続けた小二の丁男は、夕方ホームに帰ると、宿題をしていなかったことに気付き、しかも内容がインターネットを使って大人と一緒に調べた内容でした。

丁男「インターネットで調べたいから、パソコンを一緒に見て!!」

職員「小さい子の風呂を入れたり、ご飯の準備をしたり、何で忙しくなってるから言うの? 風間、遊んでいる暇があったらでざたでしよ!」

— 五分後、涙を流しながら —

子ども「OOちゃん、ちょっといいですか?」

職員「はい。」

職員「そのだね。急に「何かして」と言ってもできないことがあるから気を付けて。」

子ども「はい。話を聞いてくれてありがとうございます。」

### 日本子ども養育研究会 養育技能プログラム

目につくところに付いていきます

スキルも

ふんだんからつかおう!!

何度も練習した「あやまる」のスキルを  
使えた一例です。

スキルが身に付いていない子は、  
・くだからしようがないじゃん!!  
・OOちゃんだって、そうじゃん!!  
などと、言いわけや責任転嫁…。

スキルが身に付くと、適切な振る舞いができ、そして他者との関係性を向上させてくれます。  
子どもたちが社会で評価されるよう、スキルを教え、できたときには誉めて自信をつけさせてあげたいです。

(長島)

NPO法人日本子ども養育研究会の養育プログラムを参考に、昨年十月からスキル学習を続けています。「あやまる、あいさつ」などとても基本的な内容ですが、この基本ができなくてトラブルが絶えない、いいコミュニケーションがとれないことが多いことに気付かれます。スキルを教え、ホームや色々な場面で実践し、大人は何が良かったのかを伝えながら誉めて伸ばすことを実践しています。最初はぎこちなくとも使いこなせる子どもが増えていきます。



### 平成25年度採用職員です お願いします!



丸田 宮崎 秋山 都筑

☆都筑 徹 (保育士)  
☆秋山加奈子 (保育士)  
☆宮崎彩夏 (保育士)  
☆丸田舞華 (保育士)

— 出身地は? —  
(つ) 高山村 (あ) 高崎市  
(み) 中之条町 (ま) 足利市

— 趣味は? —  
(つ) 料理、カメラ、釣り、ピアノ  
(あ) 買い物 (み) 雑貨屋めぐり  
(ま) プチ旅行

— 好きな食べ物 —  
(つ) 肉!! (あ) トマト  
(み) フルーツ (ま) チョコレート

— 今欲しいものは? —  
(つ) ETC  
(あ) かっこいい大きな車  
(み) 休憩時間に見るテレビ  
(ま) 車ベルファイヤー

— 子どもとどんなふうに関わりたい? —  
(つ) メリハリをつけて楽しむ時は 精一杯楽しむ  
(あ) 子どもの気持ちを理解してあげられるようにしたい  
(み) 何でも話せるような家族みたいな感じになりたい  
(ま) 楽しく、毎日笑顔で!!

お心遣いに感謝致します

(12・11・13・3) 敬称略・順不同

☆寄付金

大塚廣末、島村美也子、中澤文子、山口道子、生方貴美江、斎藤医院、布施英俊、青木登志子、外山晴子、須藤いづみ、渋谷皮膚科医院、石北敏一、大橋栄六、萩原則雄、島田卓爾、高橋潔、石坂恒二、(術)建設、MEAT星野、布施清、渋谷北群馬地区更生保護女性会小野上支部

他多数の各位

☆寄贈物品

石北敏一、五十嵐研介、番場努、(社)福三愛荘、中澤達雄、モギカパン店、山口道子、大塚廣末、全国シヤンメリー協同組合、並木なつ江、松田次夫、川端松夫、(株)東京三菱UFJ銀行、(株)日本真綿協会、中新井要子、小山一成、岩倉克治、(株)チュチュエンナ、東洋英和女学院小学部、金子誠、天野貞利、JR東労組高崎地方本部、生方貴美江、(株)アペックス、(株)プレナス、三國コカコーラボトリング(株)、日本鏡餅組合、毎日新聞東京社会事業団、月田枝里子、井上良晴、JJA全農くんま、石井きみ、横堀智子、丹羽稔、(財)郵政福祉関東地方本部、本多正平、(株)ニトリ、星野総合商事(株)、高橋春美、綿貫澄夫、塚商店、武藤孝夫、柿沼洋子、中條鉄子、清水こず江、茂木一郎、田口小百合、松村富久江、佐藤恵、藤井正雄、渋谷中央ライオンズクラブ、資生堂社会福祉事業財団

他多数の各位

☆ボランティア

「児童交流 須藤いづみ、杉本日和、都筑徹」  
「(書道) 山口道子、大塚廣末」  
「(絵画教室) ピノキオ絵画教室」  
「(学習) 群馬県青年赤十字奉仕団、高橋潔、福本亜美」  
「(ピアノ) 後藤玲子」

掲示板

・平成24年度退職職員

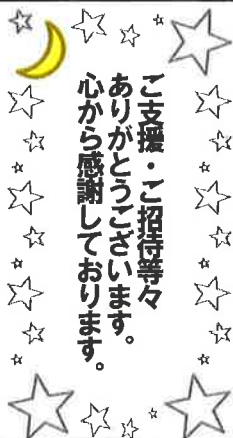
矢内千絵(児童指導員)  
松田千穂(調理員)  
大澤好美(保育士)  
黒澤夏美(保育士)  
大変お世話になりました。

・平成25年度採用職員

都筑徹(保育士)、秋山加奈子(同)  
宮崎彩夏(同)、丸田舞華(同)  
狩野恵利子(非常勤スタッフ)  
山田恵子(調理補助)、長綿文子(同)  
ご指導の程宜しくお願い致します。

・平成二五年度 苦情解決 担当者紹介(新任 第三者委員 『大塚廣末』 (赤城地区民生児童委員))

・苦情解決報告 計一件  
(平成二四年十一月〜平成二五年三月)  
内容「子ども同士のトラブル(暴言等)」  
結果「苦情解決責任者立ち会いのもと、暴言のあった子どもへ指導・反省を求め、訴えていた子どもへ謝罪。円満に解決。」



☆ご支援・ご招待等々  
☆ありがとうございます。  
☆心から感謝しております。

☆県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」  
普通自動車免許取得のため五名の高校生が  
一人二十万円の支援(配分)を受けました。  
県民の皆様の善意に感謝します。

☆布施清様(昭和三十五年卒園生)

「昔お世話になった」と卒園後五十年以上も経ってからの思いがけない多額の寄付に感激し感謝しています。

☆県消防設備協会様

幼児用の自転車、ヘルメット、学習イスをいただきました。園庭で大きわぎです。

☆VOXRAY様

児童養護施設の子どもたちへ熱いエール!!

☆日本善行会

白と柿で情緒あふれる季節行事を堪能。

☆渋谷中央ライオンズクラブ様

園内でパーベキュー。楽しい一時に感謝。

☆資生堂社会福祉事業財団様

「社会への巣立ちフェスティバル」に六名の高校三年生が参加。不安が希望へ!! (化粧品やスーツのプレゼントに感激)

☆お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

☆北極星

まもなく二歳になる女の子が入所しました。とつても可愛くてアイドルのような人気ぶりです。隣で口笛を吹くと「ギャキャッ!!」。非言語的コミュニケーションで「会話」を楽しんでいます。

担当の保育士さんは生活が一変。毎夜の夜泣き、抱っこしながらの家事、危険はないかひと時も目を離せない。愛情を注ぎ続けるには、忍耐や体力も必要で、きれいごとでは済まされません。若い保育士さんが自らの子のように可愛がり育てている姿に、昔から変わらない子持山学園の役割を見た気がしました。担当の保育士さんどこか顔つきが似てきたかな!!? 三月には高校卒業生が学園を巣立ちました。みんなで激励した壮行会で、感謝と希望を自分の言葉として立派に挨拶する姿に職員は「愛情を注ぎ続けてよかった」。新任の職員も加わり、また新たな気持ちで新年度を迎えています。子どもたち、そして我々職員にも皆さまのご指導を宜しくお願い申し上げます。

(長島)

本誌表紙に掲載した絵は、季刊「児童養護」の表紙にも採用されました。(右写真) 同じ児童が「緑化運動ポスターコンクール」にも出展したところ、金賞を受賞し、群馬県知事より賞状をいただきました。(下写真) 旧子持村内のピノキオ絵画教室(島田昌子先生)で教えて頂いています。本人の努力はもちろん、島田先生の温かなご指導の賜物です。ありがとうございます。

